

中国における伝統的民家の階層性に関する考察

李 子璟（神奈川大学）

一、はじめに

中国の伝統的民家とは、封建時代の紀元前 475 年から 1950 年代までに形成された建築の形式である。その民家の特質に関する研究は、ほとんどが建築構造や意匠に着目している。一方、中国の建築史家である梁思成さんは『中国建築史』で、「中国の伝統的民家は… “階層的住居” であった」¹⁾ とし、同じ階層の人は同じ形式の民家に住むなどのルールがあり、伝統的民家の発展に封建社会の階層分化が影響したと述べている。本稿は、伝統的民家の階層性についてを考察するために、封建時代から 1950 年代までにおける建築法の変遷と現存する民家の様式を検討する。

二、伝統的民家における建築法の変遷から見る「階層性」

中国における伝統的民家の階層性の形成は、一連の厳しい規制された。唐朝（7c～10c）では中央集権体制が整備されることにより、社会階層を規定する法律が制定された。確認できる最初の建築法は 651 年に制定された『永徽令・営繕令』であり、貴族、官僚と庶民の階層別に、建物の規模や正門の幅などが定められ、住居の規模が所有者の社会的地位と関連していた。

次の宋朝（10c～13c）では、著しい経済発展により、庶民の収入が大幅に増加し、商人層の拡大が官僚層を脅かしたため、政府は庶民の権利を制限していた²⁾。『宋史・輿服志』と『營造法式』によると、当時の建築法では、庶民の住宅における装飾の種類や建物の高さ、建物の総面積、部屋の広さなどを制限していた。

明朝初期（14c～15c）に至ると、中央集権制度の更なる強化に³⁾、社会階層も影響を受け、建築法も宋朝より厳しくなっていた。初期の建築規制は宋朝の『營造法式』に準じるものであったが、階層ごとに建物の規模や梁柱の本数を制限し、皇族以外の階層には複雑な装飾や鮮やかな彩色を用いることを禁止した。

明朝中期から末期まで（15c～17c）、国内に資本主義が台頭し、階層闘争が激化しており、中央集権制度が弱まるにつれ、社会全般に対する規制が緩和された²⁾。洪武 35 年（1402 年）の建築法では、各階層における住宅の幅の最大限は 2 間を拡大された。正統 12 年（1447 年）には、各階層の住宅の幅に関する制限は撤廃された³⁾。

清朝初期から中期に至ると、中央集権制度は再び発展し、朝廷は『工程做法則例』を制定し、建築の屋根や柱梁などの構造を「大式」と「小式」に分けた⁴⁾。貴族や官僚は、住居に

複雑で華麗な「大式」を使うことが許され、庶民は簡単で安価な「小式」しか使うことを許されなかった。1840年以降、中央集権制度が徐々に崩壊した影響で、民家に関する規制は緩和され、正門と屋根の分類以外の制限はなくなった³⁾。民国時期(1912年～1949年)に民主制が導入されると、社会階層に関わる規制が撤廃された。

三、現存する民家の様式から見る「階層性」

中国に現存する伝統的民家の多くは清朝初期に建てられたため、本稿では清朝の民家様式を中心に検討する。『清式营造则例』によると、庶民の家ではの屋根は8種類のうち、「小式」の「硬山屋根(切妻屋根)」と「卷棚屋根(大棟のない切妻屋根)」のみ、木構造は「7棟木、面積5間」以下と制限されている⁵⁾。

正門は、封建時代のあらゆる階層の住民の身分や地位の象徴であり、その様式は「大式」の「王府大門」、「広亮大門」と「金柱大門」及び「小式」の「蛮子門」、「如意門」と「墻垣式門」の6種類⁶⁾がある。3種類の「大門」は貴族の専用の形式であり、その他の様式は官吏、庶民の文人と商業者が使用できる。

また、彩色と装飾も階層意識が浸透している。清朝には「王族の住宅は金色、官吏の住宅は緑・黒色、庶民の住宅は黒・白・灰色」に限定された。建築装飾の題材は、龍鳳は王室建築のみ使用でき、風景は庶民住宅にしか使用できないなどの制約もあった⁵⁾。

四、まとめ

建築法の変遷という点では、民国以前の政府は、当時の階層闘争に対応して建築法を作成するのは、社会階層を統合する手段として建築を利用したと考えられる。現存する民家の様式から、住宅の建設は住人の社会階層に応じて法的に定められたいくつかのタイプの建築部品を組み合わせることで、民家様式の発展が制限されていた。したがって、中国の封建社会における中央集権制度は、民家が「階層性」から逃れられない根本的な要因であった。建築に階層意識が浸透することで、中国の伝統的な民家形式の多様性が制限され、その階層性が政治的・保守的な性格として現れていると推察し、今後中国洛陽市における伝統的民家の特質に関する研究を役立てると考えている。

五、参考文献

1) 梁思成『中国建築史』中国营造学社, pp. 487, 1944年1月 2) 司史, 「封建的國家の階層的本質」雲南師範大學學報, pp. 7-12, 1978年12月 3) 劉致平, 王其明『中国居住建築簡史・第二卷』中国建築工業出版社, pp. 52-53, 2000年1月 4) 工部, 『工程做法則例』清・工部, pp. 131-173, 1734年 5) 梁思成『清式营造則例』中国营造学社, pp. 33-38, 1936年10月 6) 賀曉燕「伝統的民家の“門の文化”と中国伝統的文化思想に関する研究」華中建築 2012年第12期, pp. 152-168, 2012年12月